

安全安心のまちづくりの 新たな挑戦

亀岡市は、平成20年に日本初となるWHOセーフコミュニティ認証、平成25年には再認証を取得し、安全安心なまちづくりを推進しています。さらに安心して暮らせるまちの実現のため、市民の皆さんと協働で新たな取り組みを展開しています。



▲視認テント内で反射材グッズの安全性を体感

反射材アンテナ シヨップをオープン

交通事故のうち、高い割合を占める高齢者の事故については、夜間に自宅近くを歩行中のケースが大半であり、反射材を着用することで発見距離が大幅に長くなり、守れる命があったと想定されます。そこで、亀岡市は市内企業（コーナン商事株式会社、アヤハディオ株式会社）と連携し、高齢者をはじめ

市内に設置された防犯カメラと市内企業の事業活動の中で活用されているドライブレコーダー（車載録画装置）を連携させ、まちの見守り体制を強化する「亀岡市ドライブレコーダーによるまちの見守り協定」を、市内企業、亀岡警察署および亀岡市で締結しました。

市内企業、亀岡警察署および亀岡市は、犯罪・交通事故などの発生抑制・事案解決に係る情報収集、行方不明者などの早期発見による犯罪の未然防止に係る情報提供などについて連携協力を図っています。

ドライブレコーダーによる まちの見守り協定

広く市民の皆さんに反射材グッズを購入しやすい環境を提供し、継続的かつ効果的な交通安全対策として、4月10日から「反射材アンテナシヨップ」を開設しています。コーナン亀岡篠店、大井店およびアヤハディオ亀岡店に設置されたコーナーでは、衣類や靴、自転車に付けるものやタスキなどさまざまな用途に応じた反射材グッズが陳列され、さらに、店舗内には反射材視認テントを設置。訪れた人たちは反射材によって高まる安全性を体感していました。

石野茂副市長が就任

石野茂副市長(59歳・余部町)が、市議会3月議会定例会で同意され、4月1日付けで就任しました。

略歴

昭和54年4月	京都府職員採用
平成18年4月	京都府総務部地方課長(現自治振興課長)
平成21年4月	京都府文化環境部環境政策監
平成24年4月	京都府文化環境部環境・エネルギー局長
平成27年4月	京都府南丹広域振興局長

▲石野茂副市長

玉井和夫病院事業管理者が就任

玉井和夫亀岡市病院事業管理者兼亀岡市立病院長事務取扱兼地域医療情報センター長(63歳・大阪府高槻市)が、4月1日付けで就任しました。

略歴

昭和53年5月	医師国家試験合格、医師免許証下付
平成17年4月	京都府立医科大学臨床教授
平成19年4月	松下記念病院 副院長
平成27年2月	亀岡市立病院 病院長
平成27年4月	京都府立医科大学 特任教授
平成28年1月	亀岡市病院事業管理者職務代理者兼亀岡市立病院長

▲玉井和夫病院事業管理者

田中太郎教育委員会教育長が就任

田中太郎教育委員会教育長(60歳・南つつじヶ丘)が、市議会3月議会定例会で同意され、4月2日付けで就任しました。

略歴

昭和54年4月	京都府教員採用
昭和56年4月~	亀岡市立東輝中学校・詳徳中学校 亀岡中学校教諭
平成14年4月	京都府教育庁指導部学校教育課指導主事
平成17年4月	京都府立園部高等学校教頭
平成22年4月	京都府教育庁指導部学校教育課長
平成24年4月	京都府教育庁指導部教育企画監
平成25年4月	京都府立亀岡高等学校長

▲田中太郎教育長

す。この締結により、犯罪や交通事故が発生し亀岡警察署から依頼があった場合、ドライブレコーダー映像を提供するなど、まちの見守り体制の強化が図られています。

4月8日、協力企業である京阪京都交通株式会社、京都タクシー株式会社、有限会社楠新聞舗、社会福祉法人放囊会と、亀岡警察署、亀岡市が協定書に調印。犯罪や交通事故のない安全安心な地域社会を目指し、協力体制を構築していくことを確認しました。

亀岡市は今後も、市民の皆さん、事業所、関係機関などと協働で安全で安心して暮らせるまちづくりの推進に向けて取り組んでまいります。

▲協力体制の構築によりまちの見守りを強化

第三百七十一回 亀岡ちよと昔の道具箱① 文化財めぐり

便利なまな板

まるで塵取りのようですが塵取りではありません。これは、少し前まで、よく使われていたまな板です。台形の板の三方に縁がついていて、野菜などを切った時にもこぼれにくいようになっています。日常生活の中で使うことは稀になりましたが、近年まで、夏祭りや冠婚葬祭の時など、大勢が集まって調理する時には、このまな板が活躍していました。

まな板は古くからある台所道具です。古い型のもので一般に広く知られ、事典などにも載っているのは、板の下に、下駄の歯のような足があるものです。これは、板間などに座って使うために便利な形です。また、肉や魚などを切る時用のまな板ともいわれ、力を入れて切る時には、現在のような一枚の板のまな板よりも、この方が力が入って切りやすかったそうです。

その他に、亀岡周辺でひと昔前までよく使われていたのは、この形のようなまな板でした。この形のまな板は、ほかの地域では知られていません。亀岡周辺や丹波地域の特色ではないかと考えています。

いろいろな形のまな板を、現在、文化資料館での企画展「季節の楽しみ―行事食と暮らしの道具―」で展示中です。ぜひ、実物をご覧ください。(文化資料館)

▲亀岡周辺で使用されていたまな板